

【ふるくの読み物5】

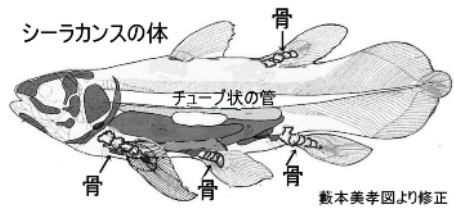
シーラカンスは大陸移動の生き証人

あなたはシーラカンスを見たことがありますか。



シーラカンスは、4億年前に現れて、その後6500万年前には絶滅したと考えられていました。しかし、1938年に南アフリカ沖で生きたシーラカンスがとらえられ、生きている化石としてニュースになりました。その後、インドネシア沖でも見つかっています。

シーラカンスは魚の形をしています。魚とは体の骨組みが大きく違います。図のように、^{えら}鰓に当たる部分に太い骨があることです。人間の腕のような



作りをしています。また、背骨はなく、チューブ状の管が背骨の代わりにしています。シーラカンスは、四つ足動物の仲間で、哺乳類の祖先にあたると考えられています。

科学者は、南アフリカ沖とインドネシア沖にすんでいるシーラカンスを捕えて、それぞれの体の進化のようすを調べました。すると、この二つの種類は、3500万年前に分かれたことがわかりました。

3500万年前というと、インド大陸がインド洋を横切っていた時です。科学者は、インド大陸が横切ったことによって、もといいたシーラカンスが分断され、それぞれに新たな種として生き残っているのだと考えています。

